

国際会議参加報告

会員 西田 泰

- 1 参加会議名 French-Japan Workshop
- 2 開催日時 平成 29 年 9 月 13 日から 9 月 14 日（2 日間）
- 3 開催場所 Ifsttar (The French institute of science and technology for transport, spatial planning, development and network) , Versailles, France
- 4 参加者 日本側（太田日交心会長、他 6 名、この外にパネル出典 3 件）
フランス側（Ifsttar 職員を中心に、約 20 名）
- 5 その他 プログラム及び参加状況の写真（Ifsttar 側から提供等）は日本側事務局も保管
していると考えられるので添付していない

<会議開催状況>

TGV のストのため、一部の参加者が出席できなかったが、ほぼプログラム通りに進行。会議は、口頭発表（6 セッション）と Ifsttar のシミュレータ施設の見学及びセッション間のコーヒーブレイク、昼食会及び初日夜の夕食会で構成。

9 月 14 日午前 セッション A : Risk and education

セッション B : Vulnerable Road users

午後 セッション C : Development and validation of simulation tools

シミュレータ施設見学

9 月 15 日午前 セッション D : Interactions between road users

セッション E : Cognitive factors in road safety

午後 セッション F : Vulnerable road users

<報告者の発表>

セッション A で “Analysis of road traffic accidents and violations for traffic enforcement” というタイトルで発表した。報告者の前に発表した岡村和子氏のテーマも取締りに関するものであったが、同氏の発表が道路交通現場での実験に基づくものであるのに対して、報告者の発表は大規模データベースに基づく統計分析結果に基づくものであることを説明した。

質疑では、日本から参加の紀ノ定保礼氏から、フランス側に対して、交通違反で検挙された後の行動変容についての質問があり、Julien Cestac 氏から、飲酒運転での検挙ではその後飲酒運転を控えるようになるとの回答があった。報告者は、行動変容がある違反種別とそうでないものがあるとコメント（発表内容にも含まれているが）した。

発表後、松浦常夫氏から、一枚のスライドに 4 つの図を示す等、情報が多すぎて分かり難いとの指摘があり、報告者も事後のコーヒーブレイクでフランス側の参加者との懇談の中で確認した。日本でも説明している内容であったが、図についてはもう少し時間を割いて説明すべきだったと感じた。また、スライドの図のフォントに、使用したフランス側パソコンに対応していないものがあり、図の一部が読み難かった（同じ、半角であるが文字間隔が不揃い）。なお、フォントの問題は、フォントに依存しない条件で図表をスライドに貼り付けすることで解消することを翌日確認した。

<シミュレータ見学>

YR を活用した自動車運転シミュレータと、簡易型歩行シミュレータを見学、なお発表で紹介のあった歩行シミュレータは自動車運転シミュレータと共通の映像システムを使っているため、今回は見学対象となっていない。

自動車運転シミュレータは動揺装置のないものであるが、10 の平面スクリーンを周囲に配置し 360 度の仮想環境を再現していた。装置の小規模化を図るために、プロジェクターとスクリーン間に鏡を配置。解像度の上昇のためか、平面スクリーンでも十分に道路交通環境を再現できると感じた（報告者が以前使用していた円弧型スクリーンと同等との印象）。

簡易型歩行シミュレータは、移動をジョイスティックで行うものであった。なお、松浦常夫氏が操作した時は、移動速度がやや早い等の理由からか違和感によりシミュレータ酔いを生じさせたが、その後、操作した岡村和子氏はシミュレータ酔いを感じなかったことから、シミュレータ酔いに個人差があることを再確認した（報告者も以前、高齢者を対象としたシミュレータ実験で体験）。

今回の workshop での話題にもなり、シミュレータの活用については難しい問題も多いが、まだまだ検討の余地（可能性）があると感じた。

<報告者の感想>

コーヒブレイクやランチ、夕食会等、参加者と話す機会が多かったが、報告者が参加した他の国際会議に比べ、参加者が2か国というためか、話題の連続性が高く、大きく発散することもなく、深い内容の議論ができたと感じた（報告者の個人的印象かもしれない）。その意味で、今回のような2か国での会議の有用性を強く感じた。

以上